

2022 年度高知資料ネットの活動

メール:h-obata@kochi-u.ac.jp

住所：高知市曙町 2-15

高知大学小幡尚研究室



↑ Facebook

▼高知地域資料保存ネットワークとは？

市民発の資料ネット

高知県内の戦争資料の散逸を危惧した市民の呼び掛けで 2016 年に高知戦争資料保存ネットワークとして発足。県民の関心の高い戦争資料から始め、文化行政のケアが行き届かない民間所在資料の記録と公的機関への保存の働きかけを目的に活動を開始した。2021 年に「高知地域資料保存ネットワーク」に改称。6 年間で 82 件約 4 千点の資料を記録している。

冊子で資料保存を啓発

月 1 回の定例会のみで資料散逸を防ぐことは困難であり、資料保存の知識の普及をもう一つの目標として活動。『高知の戦争資料を残す・伝える』『高知の歴史資料を残す・伝える』を計 2300 部印刷し、県内の博物館・図書館で配布し、地域で資料保存に取り組んでもらうことを呼び掛けている。冊子は SNS 上でダウンロードできる。



所蔵者と整理

月 1 回の定例会に相談のあった資料を所蔵者に持ち込んでもらい、一緒に資料整理を行い、資料の現地保存を支援する市民参加型の活動が特徴(図 1)。研究者が資料の特徴を解説し、資料の価値や保存の重要性を理解してもらう。

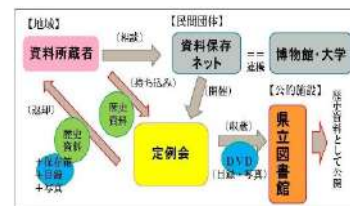


図 1 資料ネットの活動モデル

所蔵者が担い手に

資料を持ち込んだ所蔵者が、活動を通して資料保存の重要性を認識し、資料ネットのメンバーとして活動するなど市民参加型の活動が、資料保存の担い手育成に繋がっている。所蔵資料を翻刻して活字化し、地域で資料調査や目録作成を行うメンバーもおり、資料公開や調査研究といった「普及」活動に発展している。

▼2022 年度の活動

2022 年度はコロナ禍の影響で定例会は 9 回の開催にとどまっているが、外部調査を 4 回行い補足した。9 件約 500 点の資料の記録・保存支援を行った。また、2023 年 3 月に『高知県近現代資料集成 II - 目録集 -』、『土佐地域資料集成 I - 土佐清水市・上岡家文書 -』(仮題)、『土佐地域資料集成 II - 堺事件・橋詰愛平資料 -』(仮題)を刊行予定。以下主要な活動について紹介する。

近代の家文書を整理 (伊野部家資料)

地元新聞への投書をきっかけに発見された大正～昭和初期の約 350 点の家文書群。旧役場文書の多くが散逸している旧朝倉村(高知市)の町内会文書や青年団新聞、家族アルバム、昭和初期の絵図類、満州の葛根廟事件関係資料等を含む貴重な近代文書群であることが判明。約 1 年間撮影、中性紙封筒・保存箱を使つての記録整理、資料目録作成などを進め、2023 年 1 月に調査を完了した(『高知県近現代資料集成 II』で目録公開予定)。



整理作業の様子



伊野部家資料
(町内会、青年団、浜口雄幸)



翻刻作業の様子



上岡家文書

近世の庄屋文書を整理 (上岡家文書)

2018 年近世班を組織し、土佐清水市の浦庄屋の家に伝わった上岡家文書 90 点の目録作成、翻刻を始めた。由緒に関わる資料が大部分を占めるが、浦庄屋の務め方に関する文書もあり、資料や先行研究が少ない土佐の浦方の実態解明に重要な資料群。整理作業は約 4 年に及び、2023 年 3 月に目録と一部資料の翻刻を収録した資料集を刊行予定である。

その他地域資料の整理

久保家資料(高知市)の日蓮宗関係資料、宗教者の家だったと推測される山中家資料(いの町)の祭文・祝詞といった宗教関係文書を整理した。中国引き揚げ関係の蛭子操資料(高知市)、伊野部家の親戚筋の中村家資料(安芸市)の近世文書群の整理も行った。ブラジル移民関係の吉村繁義資料(東京都)は資料ネットで整理後、県立歴史民俗資料館への追加収蔵を支援。また、高知県立公文書館の企画展に協力し、過去に整理した吉岡文葉堂資料の学校用図案集が展示された。



久保家資料



山中家資料



吉岡文葉堂資料